

# KEIWA COLLEGE REPORT

第 47 号

July 2006

敬和カレッジ・レポート

発行/敬和学園大学後援会  
敬和学園大学広報委員会

KEIWA COLLEGE REPORT

July 2006

発行所/敬和学園大学 〒957-8585 新潟市富塚1270番地  
印刷所/オリオン印刷 〒950-0963 新潟市南出来島1丁目19番地1号 TEL.025-283-2151



恒例のお花見

## CLOSE UP

### 「就職活動支援最新事情」 就職委員長 桑原 ヒサ子

入学式と植樹式/スポーツ大会のご報告  
新入生オリエンテーションのご報告  
新任教員からのご挨拶/教職課程からのご報告  
オープン・カレッジのご報告/後援会総会のご報告  
2005年度決算及び2006年度予算について

# 2006

## KEIWA チャレンジ学生ファイル⑮



代表の齋藤さんと(左が久志田さん)

国際文化学科 4年

久志田 渉

### 『風と光と二十一の私と』

早いもので、新潟・市民映画館シネ・ウインドのボランティア・スタッフとなって2年が経ちます。21年前、一口1万円の出資を市民から募って開館し、現在も数え切れない人々が、映画上映に留まらない多彩な文化活動に携わっているウインド。私は、フランスの名優ジェラルド・フィリップの特集上映スタッフとしてこの映画館を初めて訪れました。

代表・齋藤正行氏が「ウインドは団結をせずルールを作らず、自分の意志で判断し自由を追求する空間」と語っているように、たくさんの仲間との繋がりがあがる風通しのよいこの「場」に惹かれ、まるで我が家のように出入りを続けています。接客や映写のお手伝い、来館されるゲストとの交流等々、忙しさに我を忘れてしまいそうですが、ウインドに集う多様な年代・職業の人たちとの繋がりを私は大切に思っています。

岡本喜八監督のオールナイト上映会を企画し、運営活動に取り組んだ後の「上映会以降、彼は一皮剥けた」という“ことば”。ウインドを中心とする市民の文化活動をテーマにした卒論の調査に行き詰った時の「君が悩んでいることはどうでもいい。君はスタッフとして一人前に扱われているのだから、そのつもりでがんばって欲しいな」という“ことば”。たくさんの人からもらった“ことば”が、私を支えています。

大学に入学して4年、私にとっての宝は先生・先輩・仲間たちからもらったさまざまな“ことば”だと感じています。現在もウインドでの卒論調査や単行本編集に追われる毎日。日々みんなからの“ことば”に応えられるように努めています。



敬和学園大学  
www.keiwa-c.ac.jp



ケータイ付



去る4月6日(木)、本学アネックスにて『外国人留学生歓迎懇談会』を開催いたしました。この会は毎年、先輩外国人留学生と教職員、そして日ごろ本学に対してご理解とご支援をいただいている近隣の国際交流関係諸団体のみなさま方へ出席いただき、新しく入学した外国人留学生を歓迎するものです。会場には、先輩留学生のほとんど全員が集い、大勢のみなさまが暖かく新入留学生を迎える会となりました。本学で学ぶ外国人留学生一人一人が将来への夢を実現できるよう、みなさまからのご支援をお願いし、この会を閉じました。

## 就職活動支援最新事情

就職委員長 桑原ヒサ子

### ●卒業Ⅱ就職

◆ 本学の就職委員会と就職指導室(当初の名称は就職相談室でした)は、第一期生が卒業を迎えるころから就職活動に励む学生を支援し始めました。社会の要請や学生気質の変化に比べ、また就職率を引き上げようとする大学間の競争によって、支援内容は次第に充実してきました。とりわけここ数年の支援体制の変化は大きく、「ほくら」の時にあったらよかったのに……とつらやむ卒業生たちの声を耳にします。

◆ 就職活動期間は学生たちにとって、その後の人生に大きな影響を及ぼすことになる、大学生活の中で決して短期間とはいえない劇的な時期だといえます。しかしその割に、この時期における学生の活動の実際や、大学の支援のあり方はあまり知られていないように思われます。今回、その「最新事情」を紹介させていただくことになりました。本学の支援体制をご理解いただき、保護者の方々には就職活動を始めのお子さま方へのご助力をお願いしたいと思います。また卒業生の方々にはOB・OG訪問、企業説明会あるいは面接指導でのご協力を、そして大学の支援者の方々には求人・採用へのご配慮をいただければ幸甚に存じます。

◆ 今春の本学卒業生の就職内定率(選考時受入率)は九六・六%(私立大学平均九五・五%)、就職率(選考時受入率)は七四・六%です。人文学部は就職に弱いと思われがちですが、それを反証する数字です。

◆ 卒業生の中には大学院進学や留学、専門学校進学や公務員試験再挑戦を希望する者もおりますが、大多数は就職するという現実があります。すなわち卒業Ⅱ就職、社会人への第一歩Ⅱ長い学校生活からの決別ということになりました。しかし、学費を支払って教育を受ける立場から、給料を得て仕事をする立場への大転換の意味を理解できるようにするのは、ようやく就職活動から卒業までの期間にさまざまな思いや紆余曲折、葛藤を経験してからのことです。

◆ 新年度が始まると、教務や学生生活と並んで就職に関するガイダンスが行われます。新入生に「将来どんな仕事をしたいですか」と質問してみます。本学には、英語、社会、公民の就職課程が設置されていますので、「教員志望です」という答えもありますが、多くの場合は「英語力を生かした仕事に就きたい」とか「国際的な仕事に就きたい」という漠然とした回答が出てくるか、沈黙です。二年生のガイダンスでも状況は大差あ



毎年2月に行われる学内合同企業説明会(本学体育館)

りません。そこで、とりあえず学生に分かりやすい現実的な助言をすることになります。「三年生終了までに卒業要件単位はほとんどを取得できるよう努力してください!」就職協定が廃止された一九九七年度以降、就職活動の開始時期が年々早まっています。問題はそれによって就職活動の終了時期が早まるわけではないことです。実質的には、就職活動をする期間は長期化し、四年生は就職活動を終了するまで全く勉強しない状態になります。

◆ 大学は企業人養成機関なのか、それとも学生時代にしかできない学問に専念させるべきかという問題は、教員の間で繰り返して生じる問いです。しかし、この問題は大学と企業との連携という大きな枠組みの中でしか解決できないことですので、就職委員長としてはこの哲学的問題に苦悩してはい

### もくじ

CLOSE UP「就職活動支援最新事情」	… 1	大学オープン・カレッジのご報告	… 10
2006年度入学式と植樹式のご報告	… 4	教育基本法改正をめぐる本学の動き	… 10
スポーツ大会のご報告	… 5	2006年度後援会総会のご報告	… 11
今年もみんなでお花見!	… 5	オープンキャンパスのご案内	… 12
新入生オリエンテーション in 胎内	… 6	学長室だよりの設置	… 12
新任教員のご挨拶 藤本 晃嗣 先生	… 8	キャンパス日誌	… 13
一戸 信哉 先生	… 8	2005年度決算及び2006年度予算	… 14
オリバー・ローズ 先生	… 9	寄付者ご芳名	… 17
シンディ・ザンボスキー 先生	… 9	学事予告	… 17
2006年教員採用実績及び社会科設置	… 8		

<表紙写真>「恒例のお花見」  
校庭で学生、教職員一緒にお花見を楽しみました(P.5)

## ●就職指導の三つの柱

就職活動が始まるのは三年生の十二月か一月ごろです。就職活動中の学生が、講義やゼミを欠席しても熱心に足を運ぶのが就職指導室です。

現在指導室は、室長と二人の職員で構成されています。指導室には求人票が公開され、毎年の学生の就職状況および就職活動内容を調査・収集したデータ、個別企業の採用情報、当該企業に就職しているOB・OGについての詳細な情報ファイルが揃っています。そのほか、企業説明ビデオや関連文献、インターネット端末を用意して、学生が就職情報を収集・発信できる環境を整えています。

指導室外の重要な仕事を挙げれば、授業としての「キャリア開発」や授業外の各種資格取得支援講座の運営、インターンシップの指導、学内合同企業説明会の開催のほか、書類作成・面接など学生に対する個別指導があります。一方、直接学生の目に触れることはありませんが、企業との関係維持と情報交換のために、人事担当者の方々の懇談会の開催、企業へのあいさつ回りなどを行っています。

三年生向けの「キャリア開発」の授業では、夏休みと冬休み中に行う四日間の集中授業と合わせて、適性検査、業界・企業説明会、公務員試験対策から果ては面接時の声の出し方、表情の作り方まで学びます。はじめに勉強した結果、「イメージ・トレーニング」どおりに活動を展開して複数の内定をもらう学生がいる一方で、生半可な気持ちで出席した学生は、エントリー・シ

ートの志望動機も自己PRも書けずに立ち往生してしまいます。明暗がはっきり分かれます。

「キャリア開発」が単位化され授業に格上げされたのは、三年前のことです。それまでは「就職ガイダンス」と呼ばれ、参加は学生の意志に任されていた。自分の将来がかかっているというのに、当時の出席率は三〇%台でした。単位というプレセントが付いて、出席率は現在八〇%を超えています。単位目当てで履修した学生の多くも、出席して初めてこの授業の重要性を認識したことが、毎回授業で提出を求める感想や質問の中に見てとることが出来ます。

就職への意識を高め、要望の高い資格を取得するために数年前から複数の資格取得支援講座も開講しています。今年度開講し



インターンシップに参加した学生たち（2005年度）

まく伝えられるまで繰り返し、徹底的に指導します。志望する企業に就職させてやりたいとの「親心」です。

私のゼミ生が面接試験を受けるというので、室長の面接指導を受けるように勧めました。「コワイからイヤです。」室長の「親心」が「コワイの伝説」となっているようです。「本当の親」からは叱られたことのない学生たちなのでしょう。就職して数ヶ月の卒業生からのメールを思い出します。「職場の先輩から『バカヤロー』って怒鳴られました。生まれて初めてのことです。でも気を取り直してまたがんばります。」

社会人ともなれば、もっと大変なこともある、面接指導でミスしたって大丈夫、一つ一つ改善してもらい、本番で自分自身を最大限アピールできることが肝心、とゼミ生の背中を押ししました。

長期化する就職活動で落ち込む学生を励まし、全力投球してない学生を叱咤し、内定が取れない学生には、その学生に合う求人があるかと連絡を取る。就職内定率九六・六%はこうした支援活動に支えられています。内定を勝ち取った学生の報告書は、どれも同じような内容で締めくくられます。

「室長や指導室の職員の方々がよく声をかけてくださり、様々な情報をいただけたことが就活（注・学生は就職活動をこう短縮しています）について真剣に考えることにつながりました。面接指導も、自分が納得のいくまで最後までしっかりと指導してくださり、本当に感謝しております。」

ている講座はマイクロソフト・オフィス・スペシャリスト（ワード・エクセル）、秘書技能検定、販売士検定、簿記検定などです。外部から講師を招き、多くの学生が受講できますよう、大学が講習料の一部を負担しています。ワード・エクセルと秘書検定の二講座は三年生だけでなく、一・二年生にも時間にゆとりのある時期にチャレンジするよう勧められています。パソコンが使いこなせるのは今や常識です。また企業からは常々学生にあいさつとマナーを身につけさせるよう注意を受けたりします。この点に

関しては、大学の教育というよりも学生本人あるいは家庭におけるしつけの問題だと思えるのですが、大学においても日常的に学生に接するからには知らん顔もしてはいけません。「元氣にあいさつしましょう！」と大学生に向かって呼びかけることになりました。そしてマナーを身につける効率的な手段が秘書技能検定講座なのです。

インターンシップは、企業が学生に就業研修をする機会を用意し、大学は研修に対し単位を認定する制度です。就職活動を目前に控えた三年生を対象に夏休みに約二週間行います。昨年度は新潟県国際交流協会、新潟グランドホテル、第四銀行、キューピット、長岡グランドホテル、ハードオフコーポレーション、新発田市役所、聖籠町立図書館で計十六名の学生が研修しました。アルバイトと違ってお金を稼ぐことはできませんが、教育効果が保証された労働体験をすることが出来ます。また、実社会において多くの社会人と接することにより、自己評価、自己認識を深めることができるメ

## ●「就活」を経て成長する学生たち

目下、多くの四年生はリクルートスーツを着て、就職活動に駆け回っています。内定をいただく学生も次々に出てきています。三年生の「キャリア開発」の授業では毎年秋に「内定者の体験談」を予定しています。近い将来の自分の姿と重ねて、一年先輩の貴重な話に三年生は熱心に耳を傾けながら、敬語を見事にあやつり、礼儀正しく立ち居振る舞い、伝えるべきことをしっかりと発信する先輩の堂々とした姿に驚きを禁じ得ない様子です。先輩たちは、資料請求に始まる就職活動の過程で、何段階にもわたる選抜による成功と挫折とを繰り返し、眠れない夜や不安な日々を過ごしてきたのです。内定に至るまでのこの過程を経ることによって、学生は社会人になるための自覚を身につけ、社会的にも精神的にもたくましく成長していくのです。



左から藤井係長、宮川室長、桑原委員長、長澤職員

リットもありません。昨年度の体験レポートから一部をご紹介します。「以前は仕事に楽しい面ばかり期待していたが、今は就職の心構えを変えなければならぬと思う。がんばって仕事をしてみたいと思った。うれしいし、達成感もある。その反面、大学にいる時とは違い、すべてのことに対して責任を持たなければならぬし、仕事の内容も自分で選ぶことはできない。長期間同じ仕事をすれば、つまらないと思うかも知れない。辛抱することができるとかできないかは、社会人と学生の違いだと思う。」

## ●「コワイ?」室長の面接指導

採用試験は、適性検査、一般常識試験、論作文、面接の中から複数の組み合わせで行われるのが一般的です。最近では「人物本位の採用」といって、面接試験を重視する企業が多くなっています。

ところが、面接試験の採否基準はかなり漠然としています。ある先生の二人のゼミ生が同じ企業の面接を受けたところ、大学の成績がよかった方の学生が不合格、もう一方の学生が合格したというので、前者の学生が悩んでいたというのです。どうも採否基準と学業成績は必ずしも相関関係はないようです。企業の人事担当者の方々に求める人材について行ったアンケートをまとめてみますと、「礼儀正しく、明朗で、積極性とコミュニケーション能力があり、何か一つでも大学時代に打ち込んだことがある人」ということになりました。

ですから宮川室長は個別の面接指導に力を入れています。自己PR、志望動機をう

## 二〇〇六年度 入学式と植樹式のご報告

去る四月五日（水）、二〇〇六年度の入学式が、新発田市民文化会館大ホールを会場にして挙行されました。

前奏とともに新井学長はじめ、本学教員と来賓の方々が壇上に入場し、厳肅な雰囲気なかで入学式が始まりました。

新入生一九〇名、編入生一〇名の代表として英語文化コミュニケーション学科の佐藤春奈さんが宣誓を行いました。引き続き新井学長からの式辞が述べられた後、地元の新井新発田市長様（大山助役様代読）、渡邊聖籠町長様からの祝辞や多数の祝電、さらに在学生有志・地元コーラス・グループによる「ハレルヤ・コーラス」が披露され、これからの大学生活を迎える新入生たちを歓迎してくださいました。



入学式（新発田市民文化会館）

また、五月十二日（金）には、この二〇〇名の学生全員が敬和学園大学でいきいき



新井学長と学生たち（ユリノキと共に）

と成長していくことを願って、入学記念の植樹式を行いました。

本学ニューエル館時計台前のスペースに新入生と教職員の手で「ユリノキ」が植えられました。新井学長の提唱によりはじまったこの植樹式は今年で四年目になります。

今年の春先には、職員数名でユリノキがより大きく成長できるように、排水がしやすい土壌づくりを行いました。木を育てるためには、時間をかけて土壌の整備を行い、地力をつける必要があります。本学では、この「ユリノキ」を育てていくことと同様に、ここに集った新入生全員が一人として欠けることなく笑顔で卒業できるように、教職員が丸となり、それぞれの持ち場にあつて、学生が大きく成長していくための「土壌」を整えていきます。



一期一会  
英語文化コミュニケーション学科二年  
佐藤 春奈

はじめまして。私たち第十六回生は四月に、無事に入学することができました。それぞれが夢や希望を持ち、また、夢を見つけるために迎えた大学生活は思ったよりも刺激が大きいものでした。新しい環境や人間関係になじめず、初めの一ヶ月はとても苦しい思いをしました。なぜこの進路を選んだのかと後悔もしました。

しかし、大学生活にも慣れて友人もでき余裕が出てきた今、改めて自分がこの進路を選んだ理由を思い出すと同時に、大切なことに気づきました。それは、人生は一度しかない、ということ。これは、すべての人にとって大切なことだと思います。

私がこのことに気づいたのは、初めての大学生活に対して、不満ばかり言っていた日々を思い出したからです。「今」という時は一瞬で終わってしまいます。「人生笑ったもん勝ち」とよく言いますが、私は笑うより落ち込んでいるほうが多かったのです。これはすこくもったいないことです。

今という時は一生に一度しかありません。今興味があることや、夢も今だからこそ実行しなくてはいけないと思います。実行しないで後悔するより、実行して後悔したほうが次に何かをするときの基になります。これからは、今までできなかった新しいことにも、失敗を恐れずに勇気を持ってチャレンジしていきたいと思っています。

## 今年もみんなでお花見！

敬和学園大学は、実は知る人ぞ知る「桜の名所」なのです。春になり、校門を入ると、そこはあたり一面「桜色」、うっとりとしてしまいます。

去る四月十九日（水）、そんな本学の校庭を使ってお花見を実施しました。心配していた天気も当日は晴れ、暖かい春の日となりました。二〇人くらいは来るかなあ：なんてのんびりしていたのですが、「ドリッップコーヒーと手作りケーキをたくさん用意してマス。」のうたい文句に惹かれてか？、昼休みになると続々と学生が集まってきました。学生の数を数える暇もなく、せっせとチャイ（インド風の煮出したミルクティー）を振る舞いました。八〇人くらいは来たでしょうか…。

新入生もたくさん加わり、学生、教職員、ごちゃ混ぜの敬和らしい楽しいひと時でした。（ボランティアセンター係）



桜に囲まれた校舎

## いい汗流した！スポーツ大会のご報告

去る六月三日（土）、恒例のスポーツ大会が行われました。種目はバスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、テニスで、多くのチームがそれぞれにユニークな名前をつけて参加しました。日ごろ体育系クラブで鍛えている、また腕に覚えのある、あるいは単にスポーツが大好きな学生の皆さんと、日ごろの運動不足を解消しようという教職員が集まり、一日いい汗を流しました。（一部の参加者は疲労の回復までに一週間を要しましたが…）

フラインプレーや名場面を数多く残した今回のスポーツ大会、普段の授業では見られないような（？）学生たちのひたむきな姿とステキな笑顔が印象的でした。審判や試合運営をお手伝いしてくれた体育系クラブの学生さん、また企画・運営全般を担当していただきました職員の皆さま、ありがとうございました。（学生委員会 杉村）



バストを尽くしてがんばりました



バスケットボール優勝  
Mockoly all stars  
川口 博史

チームは全員四年生で構成されています。何よりの強みはメンバー全員が、これまで何かしらスポーツの経験があることです。

一番印象に残っている試合はやはり決勝戦で、相手は二年生のチームでした。試合が重なることに疲弊してきていましたが、本気で迎え撃つ気持ちで、全力で戦い抜きました。そして、みんなのがんばりが実を結び、優勝することができました。

大学生活最後のスポーツ大会を優勝という結果で終えることができ、とてもうれいす。今まで苦労や困難、楽しいことを共にしてきた仲間たちと、また一つ大きな喜びと感動を分かち合うことができ、大きな達成感を感じています。



バドミントン優勝  
千 秋 楽  
石見 厳和

バドミントンに出場した「千秋楽」（風間信吾・石見厳和）です。私たちのチームの特徴は攻撃的などころです。今回の大会は例年よりレベルが高く、優勝する自信はありませんでした。特に「チーム富川」、「ミルキーズ」はとても強く、試合時間は一時以上にも及びました。

いい相棒に恵まれ二年連続優勝という快挙を成し遂げました！（試合が終わった後はクタクタでしたが…）来年もぜひ優勝して三年連続優勝を目指します！

新入生オリエンテーション

2日目 4月21日(金)



7:30 起床



8:00 朝食

9:00 朝の礼拝



9:15 学生団体紹介

留学説明会

10:30 学生団体勧誘会

留学個別説明会



11:00 クラス対抗綱引き大会

13:00 昼食

14:00 会場出発

15:00 大学到着～解散

新入生オリエンテーション in 胎内

去る4月20日(木)、21日(金)、新入生オリエンテーションが大学のある新発田市の隣、胎内市の胎内高原で行われました。

これは、入学式から2週間を経過した新入生が自然今後の学生生活の準備をしたりすることを目的とし

胎内へは教職員を含めて200名を超える参加者が5ら賑やかに移動しました。今年度の新しい企画として、ナーに関する講演」と夕食前の「キャンパス・ソングが行われました。

「マナーに関する講演」では、喫煙による本人やべたに座り込む人のこと)、ゴミのポイ捨てについて「キャンパス・ソング『光さず路』」は卒業生の(2005年度卒業)から、夕食前の時間にロイヤル胎内ホテルのコンベンション・ホールで演奏していただきました。普段、ディナーショーも開催する豪華なプレゼントとなりました。

「留学説明会」では、留学という入学前に抱いた受けられました。

盛況だった学生団体紹介を経て、結びには、今年教員が一体となり、大いに盛り上がりました。

テーションが大学のある新発田市の隣、胎内市の胎内高原で行われました。この中で、多くの友達をつくったり、た開学以来恒例の行事です。

台の観光バスにクラス別に分乗し、遠足気分ながら1日目には、久島学生部長による「大学生としてのマナーに関する講演」と夕食前の「キャンパス・ソング『光さず路』の演奏」が、2日目には「留学説明会」

周囲の人への健康上の影響や“ジベタリアン”(地での指導等が行われました。

勝又圭介さん(1998年度卒業)と長澤千亜里さん内パークホテルのコンベンション・ホールで演奏される会場ということもあり、この演奏は新入生に対する

夢を実現しようと、熱心に聞き入る新入生の姿が見

もクラス対抗綱引き大会が行われ、参加する学生と

(学生部長 久島)

新入生オリエンテーション

1日目 4月20日(木)

10:00 大学集合



11:00 大学出発

12:00 会場到着・開会礼拝



12:30 昼食

14:00 ボランティア講演

15:00 学生部長講演



16:00 クラス別集会

17:30 キャンパスソング演奏



～夕食～自由時間

22:30 消灯

私は大学に入学してとても光栄です。入学してすぐ、楽しみにしていた新入生オリエンテーションが行われました。とてもわくわくする気持ちでみんなと一緒にバスに乗り、胎内に着きました。まず体育館で先生たちの紹介やアドバイスを受けました。そして、人生の中でも大事な大学生活を一番楽しく送るよう心から誓いました。その夜は、何人かの日本の学生といういろいろなコミュニケーションをとりました。友達ができるのが一番うれしかったです。翌日は、先輩たちがサークルについて説明してくれました。大学で経験できる一つ一つのことに興味を持つようになりました。胎内で一番印象的だったことは綱引きです。私はもともと運動が好きで中国でもいろいろなスポーツをしてきました。綱引きもその中の一つです。私たちのチームは優勝を目指して、一生懸命力をあわせてやりました。そして勝ち続けて最後の試合。みんなが試合を見ていました。私はとても緊張しました。私たちは全力で綱を引きました。しかし、相手のチームは本当に強く、残念ながら優勝はできませんでしたが、とても楽しかったです。一泊二日の短い時間でしたが、私は入学してすぐとてもいい思い出を作ることができました。あの日は本当に一生忘れられない楽しいオリエンテーションでした。

オリエンテーションの感想  
国際文化学科一年  
張 呼格吉樂吐  
チヨウカ フクキョクキョクト

団体行動が得意でない私は、まだ慣れていない人たちと一緒に一泊二日で新入生オリエンテーションに行くなんて、あまり乗り気ではなかった。行く直前まで部屋割りかわからず、また、好きなもの同士ではないことも大きな不安の一つだった。しかし、実際行ってみるとそんな不安はすぐに吹き飛んだ。先輩方のボランティア活動の体験談や、サークル活動の紹介はとても自分のためになったと思う。また、敬和の先輩である勝又さんと長澤さんのキャンパス・ソングの演奏は夕食の時間をとても有意義なものにしてくれたし、大変感動した。また、先生方の考えを夕食の時間に聞いたことは本当にうれしかった。普段はあまりしゃべらない人たちとも話せたし、前から仲がよかった友達とも友情を深められたと思う。基礎ゼミごとに分れて行ったクラス別集会は先生が大学時代に熱中していたものや、先生の思い出が聞けてよかった。基礎ゼミの学生一人ひとりが将来の目標や夢について語り、それに対して先生がアドバイスをくれたりして、全員が自分の目標や夢に対して真剣になって取り組むことができたと思う。私はこの貴重な経験を生かし、かつしっかりと心に刻んで敬和でのこれからの四年間を有意義なものにしていきたい。

新入生オリエンテーションを振り返って  
共生社会学科一年  
飯田 美鈴  
イヒダ ミスズ

## 新任教員



国際文化学科講師  
藤本 晃嗣

恵まれた学舎に赴任できて幸せです！

四月から国際文化学科の講師として赴任し、「国際法」や「国際人権論」などの科目を担当しています。その前は大阪大学大学院 国際公共政策研究科で助手を務めていました。

敬和学園大学を初めて訪れたのは昨年十月の末、新発田市にもそろそろ雪が降ろうかという季節でした。その時に受けた敬和学園大学の印象は、「なんてアットホームな大学なんだろう！」ということでした。赴任してからもこの印象は変わらず、むしろ強くなってきています。教職員が一体となって学生に親身に向き合い、大学全体がまるで一つの大きなファミリーを形成しているように感じています。学生の皆さん、こんな素晴らしい雰囲気を出している大学は他にはありませんよ！皆さんの四年間が実り多きものになるよう、私も精一杯がんばっていききたいと思います。

さて、私の専門は国際法と人権法で、日本人の権利保護の水準を国際的な観点から比較検討してきました。その結果、意外かもしれませんが、国際社会から実際に批判されているように、日本の水準は決して高いものではないことが分かりました。講義やゼミでは、社会の様々な「意外さ」を提示し、論理的にそれを考える機会を提供できるようにしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

私が担当する講義・演習は、表面的なパソコンの使用方法を習得することを目標としたものではなく、こうした「中身」での競争に打ち勝つタフでユニークな教養人と、地域に力をもたらす頼れる大学を、側面支援していくのでありたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



国際文化学科助教  
一戸 信哉

情報技術のその先に

今年度から敬和学園大学で情報技術関連科目を担当することになりました。

ビデオの録画予約。携帯電話の操作。新しい道具が世の中に現れたとき、それらを便利に使いこなす人と、なかなか適応できない人がいます。ビデオや携帯電話に比べて、パソコンはさらにもう少し近寄りがない存在であるように思います。私の「当面」の仕事は、この「近寄りがたさ」を、この敬和のキャンパスで一つ一つ取り除いていくことになると思います。

しかし、私が本来行うべき仕事は、その先にあります。ネットワーク化の進んだ今日の情報技術は、各個人・各地域・各国の競争を、静かにうながし続けています。この競争は、「技術」の競争でもありますが、それよりもかなり幅広く、「中身」の競争になりつつあります。学校の中だから通用する論理、市内だから通用する能力、県内だから通用する権威、あるいは、日本国内だから通用する商売。程度の差こそあれ、これらは徐々に崩壊に向かっていきます。

私が担当する講義・演習は、表面的なパソコンの使用方法を習得することを目標としたものではなく、こうした「中身」での競争に打ち勝つタフでユニークな教養人と、地域に力をもたらす頼れる大学を、側面支援していくのでありたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 新任教員

### 温かい人々に囲まれて



契約講師  
オリバー・ローズ

私は、オーストラリアのキャンベラで生まれました。趣味はギター演奏、旅行、自転車に乗ること、いろいろな言葉を学ぶこと、そしてもちろん、教えることです。日本では福岡、横浜、東京、福島、最近では大阪といろいろなところに住みました。小学校から大学まで幅広い教育の場で教える経験ができたため、英語を教える視点も広がったと思います。

大阪からこちらには四月に参りました。そしてすぐに新発田城の周りの桜を楽しむことができました。新発田の人々は温かく、自然が美しいこちらの生活になれることができました。二〇〇四年には福島県の二本松市に住んだことがあるので、落ち着いた場所の生活や寒い気候はすでに経験しています。のどかな生活の中で自転車に乗ることが再びできるのがうれしいです。冬にはスノーボードに挑戦したいです。

敬和学園大学では、教員や職員の皆さまに温かく迎えられるほか、仕事でも協力していただき感謝しています。学生の幅も広く、クラスの人数は程よく、個人的なふれあいのある、ちょうどよい大きさです。

敬和の学生の熱心な姿と協力が感銘しました。敬和学園大学の教職員や学生、新発田周辺の人々と仲良くしながら、教育や教材作り、クラス開発に積極的に貢献していくと思ひます。どうぞよろしく。

### 「キ・オラ！」



契約講師  
シンデイ・ザンボスキー

「キ・オラ (Ka Ora)！」これは、英語とともにもう一つのニュージーランドの言葉であるマオリ語のあいさつの言葉です。

大阪を出た時には桜が咲き始めていたのですが、新潟ではまだ、雪が降っていたので驚いてしまいました。でも、敬和がとてもフレンドリーで温かなところだと分かったので、今は雪のことを心配していません。また、新潟ののどかな環境は、ニュージーランドを思い出させます。違うのは、こちらではお米がたくさんとれ、向こうでは羊をたくさん育てていることでしょうか。

敬和での初日は、新入生オリエンテーションでした。教員が立ち並んで自己紹介しているとき、最初、緊張していた新入生たちも、すぐに教員の冗談に対して笑い、安心してゐるのがわかりました。そんな姿を見て、よい職場であると実感しました。学校の規模が大きくないので、教員は個々の学生にふれあうことができます。

ニュージーランドの大学院では、オークランド大学で学んでいる日本人学生について修士論文を書きました。当時、私は留学中の日本人の学生に面接調査しましたが、今度は、日本の大学で学ぶ学生をみるというのは、とても新鮮です。

敬和では、研究で得た知識を役立て、よい貢献ができるようにベストを尽くそうと思ひています。よろしくお願ひします。

## 二〇〇六年教員採用実績 及び社会科設置

二〇〇六年度より国際文化学科に教職課程 中学校社会（一種）を開設しました。従来の英語文化コミュニケーション学科に設置されていた英語、国際文化学科に設置されていた公民の教職課程に加えて、より多くの学生のニーズに対応することが可能となりました。

本学の教職課程では、少人数の徹底した実践教育の中で教員として必要な知識・技術を身につけていきます。さらに、授業以外でも教員採用選考検査に向けてのガイダンスや特別講座の開講など、きめ細かい指導を行なっています。

教員の採用が年々厳しくなる中で、今年度も公立学校の教諭として三名（うち科目等履修生二名）、講師として五名の卒業生が採用されました。多くの学生が教職課程を履修し、教員として社会に巣立っていくことを期待しています。（教職課程委員会）

### 2006年 教員採用実績

〈卒業生〉			
卒業年度	学生氏名	採用種別	勤務校
2000	安中 桃子	教諭	新潟県立高田北城高等学校
2001	小熊 明子	講師	上越市立八千浦中学校
2003	三星 寛徳	講師	十日町市立松代小学校
2003	横山 美幸	講師	上越市立城東中学校
2005	佐々木 美佳	講師	弥彦村立弥彦中学校
〈科目等履修生〉			
修了年度	学生氏名	採用種別	勤務校
2003	吉澤 崇	講師	上越市立安塚中学校
2005	小山 美弥子 (本学卒業生)	教諭	愛知県立旭野高等学校
2005	田澤 佳徳利	教諭	見附市立見附西中学校

### 教職課程での学び



英語文化コミュニケーション学科二年  
かねうち 悠美

私は中学生のころから先生という職業に憧れ、いつか私も教壇に立つてみたいと思ひていました。敬和学園大学を選んだのも、教員免許状の取得を目指してでした。

『教育の社会的・制度的研究』の授業では、学校教育における政治・宗教の扱い方や、教員として要求される能力には社会的に規定されているものがあることなど、これまで考えたことのない話題を客観的に論じる練習をしています。

『発達と学習の教育心理学』の授業では、他者や社会的規則、意思の疎通、そして自己をコントロールすることさえも、仲間関係の中で形成されていることが分かり、日頃から何気なく観察している子供たちを見る目が少し変わってきた気がします。

私は大学のインターンシップ制度を利用して、新発田の第一中学校で週一回、生徒たちに英語を教えるお手伝いをしています。ときに教科書を開かない生徒もいるので、私はそういう生徒に注意をしながら、最近の中学生の様子を観察しています。

今日はみんなの前で英語を発音してきました。みんなが私の真似をして発音してくれるので、とても緊張しますし、もっと英語を勉強しないとイケないと思ひました。そして、いい英語の先生になるには、やはり英語力が大事なので、この夏はしっかり実力を上げたいです。

大学オープン・カレッジ「たのしい川べ」再読の報告

『冒険者たち』や『グリックの冒険』、『ガンバとカワウソの冒険』などの著者として知られる児童文学者の斎藤惇夫氏を講師にお迎えし、今年度最初の本学オープン・カレッジを六月三日、四日の二日間、連続講義という形で開催しました。

今回は新潟県内のみならず、青森や東京、金沢といった遠方からもご参加いただき、およそ二〇〇人の受講生が、イギリスの著述家（銀行の要職にもついでにいた）ケネス・グレーム（1859 - 1932）による傑作、『たのしい川べ』を通じて児童文学の精髓を味わいました。

『たのしい川べ』には、川ネズミやモグラ、ヒキガエルなどの「小さな生きものたち」のわくわくする冒険と厚い友情が生き生きと描かれています。無愛想ではあるけ



興味深く聴き入る受講生のみなさん

れど、どっしりと構え、何事にも動じることなく、これらの小さな友人たちを理解し、守ってくれる森のアナグマも含め、イギリスの自然の描写とともに、それぞれの登場人物（動物）の性格や生き方が驚くほど精密に、同時に深い共感をもって表現されています。

長岡で少年時代を過ごされた斎藤氏は、豊かな自然に囲まれて育った一九五〇年代、自分も川べで遊んだ子どもとして、一〇歳の時にこの本に出会った時の感動を受講生と分かち合うことから講義を始められました。幾十年を経た今日、当時の感覚に戻ってこの作品をあらためて考えてみたいという斎藤氏のお話から、ご自身の長岡の川べでの体験が氏の原風景であり、その年齢の時に『たのしい川べ』を読んだ「文学体験」が氏の作家活動の原点であることもうかがわれ、『たのしい川べ』再読の意義も含めて受講生の興味は深まるばかりでした。

人は何歳になつたら自分というものを意識するのか、言葉で「自分の風景」をとらえるようになるのはいつからなのか、その風景との一体感がなくなるのはいつからなのか、いつから「見る側」へ移っていくのか、など子どもが成長とともに失うものについて、著者ケネス・グレームの人となり、その生涯との関係にもふれながら、ユーマアを交えて読み解いていられる斎藤氏の講義に一同惹き込まれ、時の経つのも忘れる二日間でした。（広報委員 松崎）

二〇〇六年度 後援会総会の報告

四月五日の大学入学式に引き続き二〇〇六年度後援会総会が新発田市民文化会館で開催されました。例年どおり顧問をお引き受けいただいております学校法人敬和学園後宮俊夫理事長及び新井明大学長から、ごあいさついただき、その後倉嶋新悦会長を議長に議案の審議に入りました。

二〇〇五年度決算については大学の宇田川潔事務局長から説明いただき、二〇〇六年度事業計画及び予算案については理事として私が表に基づき説明をし、それぞれ承認されました。

二〇〇五年度決算については、ほぼ予算内での支出となりましたが、雑費については、オープンキャンパスへの参加者の増加により、飲食費への補助が増額になった

め、若干予算を上回っております。

二〇〇六年度予算では、新しい事業の計画はありませんので、昨年度実績を基に計上してあります。教職員活動補助費については昨年度は支出しておりませんが、昨年度予算と同額を計上しました。

もうひとつの協議事項でした役員の改選では、倉嶋会長及び藤井達博副会長が卒業のため、私が会長を、大井重明さんが副会長を引き継ぐことになりました。その他の方には再任いただきましたので表をご覧ください。

また、七月十五日に「三年生保護者懇談会」が新潟グランドホテルで、十一月十一日に「一・二年生保護者懇談会」が本学で予定されています。どちらも大学の先生方

教育基本法改正を促す本学の動き

本学の学則第一条にも「教育基本法及び学校教育法に従い」と定められているように、教育基本法は教育に携わるすべての人々、教育機関が大原則としていたる大切な法律です。したがってこの基本法の改正についても重大な関心を寄せざるを得ません。今国会では継続審議となり、改正案は成立しませんでした。本学においても昨年の十一月に「教育基本法改正問題検討委員会」を立ち上げ、この問題についての議論を重ねました。

小委員会は共生社会学科長の山田耕太教授を座長に各学科から一名ずつ選出し、これまでに五回の委員会を持ち、

- ① 教育基本法改正をめぐる全体状況、
- ② 戦前の教育、
- ③ 現行の教育基本法成立の経緯、
- ④ 教育基本法改正の経緯、
- ⑤ 与党最終報告案

について詳細に学び、そこから浮かび上がった懸念される点（国に対する様々な愛し方が一つの方向に定められてしまうことではないのだろうか）を検討しました。加えて四月からは敬和学園高校と五回の合同委員会を開き、高校・大学ともに更に議論を深めて来ました。

委員会の報告は逐次教授会に伝えられ、この間、大学では二度にわたり教職員合同の教育会議を開いて、そこでもこの問題についてどのような姿勢で取り組むべきか、真剣な話し合いが続けられています。（広報委員 松崎）

と親しく懇談する良い機会です。授業や成績の様子、就職活動の仕方など、とても大切な内容になっています。どうぞご両親でお出かけください。費用は後援会が負担しています。

本後援会は、この「カレッジ・レポート」を会報誌として、その費用を全額負担しています。また、予算、決算にも一部に現れています。また、学生のクラブ活動や敬和祭（学園祭）、就職活動、駐車場の確保等、広範に支援しています。

私は後援会に加入して三年目を迎えています。今までは理事として会長・副会長のお手伝いでしたが、今年度から会長として、先輩たちが築かれてきたこの組織が発展し、大学経営の一助となるよう、微力ですが務めてまいりますので、今後とも協力・ご指導のほど、よろしく願います。（後援会長 齋藤栄路）

収入の部 単位：円

科目	2005年度予算	2005年度決算	2006年度予算
後援会費	20,000,000	22,625,000	22,400,000
寄付金	10,000	10,000	10,000
雑収入	1,000	2,116	1,000
学生団体より戻入れ金		258,959	200,000
収入小計	20,011,000	22,896,075	22,611,000
前年度繰越	4,384,787	4,384,787	5,916,103
収入の部合計	24,395,787	27,280,862	28,527,103

支出の部 単位：円

科目	2005年度予算	2005年度決算	2006年度予算
事業活動費	3,000,000	2,609,128	3,010,000
会議費	200,000	134,606	200,000
事務費	30,000	30,000	30,000
通信費	2,660,000	2,216,104	2,760,000
印刷製本費	2,460,000	2,294,040	2,570,000
手数料	30,000	9,485	30,000
学生クラブ補助費	3,000,000	3,000,000	3,000,000
Aネック維持管理補助費	700,000	700,000	700,000
学園祭補助費	3,000,000	3,000,000	3,000,000
教職員活動補助費	300,000	0	300,000
施設、設備、備品補助費	7,700,000	7,006,500	11,200,000
旅費交通費	80,000	48,000	80,000
雑費	235,787	316,896	647,103
予備費	1,000,000	0	1,000,000
支出小計	24,395,787	21,364,759	28,527,103
次年度繰越金	0	5,916,103	0
支出の部合計	24,395,787	27,280,862	28,527,103

2006年度敬和学園大学後援会役員

役職	氏名	職業	備考
会長	齋藤 栄路 <small>14回生保護者</small>	新潟市議会議員	
副会長	大井 重明 <small>15回生保護者</small>	公務員	
副会長	佐藤 清江 <small>13回生保護者</small>	主婦	
理事	横山 由美子 <small>15回生保護者</small>	新潟YWCA会長	
理事	皆川 日出夫 <small>15回生保護者</small>	南皆徳代表取締役	
理事	須田 稔 <small>16回生保護者</small>	公務員	新任
監事	横山 博子 <small>12回生保護者</small>	南がスキャンやめ代表取締役社長	
監事	鹿島 孝夫 <small>16回生保護者</small>	公務員	新任

顧問 後宮 俊夫 学校法人敬和学園理事長  
顧問 新井 明 敬和学園大学長

## オープンキャンパスのご案内

今年度のオープンキャンパスは、多くのみなさまにご参加いただき理解を深めていただくため、四回開催します。六月十八日(日)の第一回目は好評のうちに終了し、今後は七月二〇日(日)、九月十八日(祝)、十月二十二日(日)に実施します。

バラエティあふれる体験授業やサークル活動体験、ネイティブの先生方との語学交流、在学生が大学内を案内するキャンパスツアー、推薦入試対策として人気の模擬面接、無料ランチ等々、毎回趣向を凝らし、参加いただくたびに楽しめるプログラムを用意しています。

オープンキャンパスへの参加を通じて、多くのみなさまに本学のモットーである「学びの感動」と「教育のぬくもり」を体感していただけることを心より願っています。

(入試委員会・入試室)



## オープンキャンパスで自分発見!



英語文化コミュニケーション学科 学生代表  
近藤 由希

「私が敬和を選んだきっかけ」、それはオープンキャンパス!と言っても過言ではありません。

大学に足を踏み入れること自体初めてで、参加する前はとても緊張していました。しかし、実際に行ってみると教職員の方々や先輩方がとても親切で、緊張も忘れて体験授業に参加している自分がいました。

私はネイティブの先生による英語の授業に参加しました。それは英語しか使っていない授業で、当時の私にはとても恐ろしいことでした。でも、実際話しだすと不思議と英語が出てきて、会話を楽しんで自分の発見できました。この授業は、英語が好きなのになかなかで悩んでいた私に、再び「英語が好き!うまくない!」という気持ちを与えてくれました。この機会があれば、私は英語の勉強を続けることを諦めていたかもしれません。

また、ランチタイムには先生や先輩と気軽に話せることができ、普段はなかなか聞けないようなことや大学生活のなどを教えてもらいました。みなさんもランチタイムには、ぜひたくさん質問してみてください。(ちなみに私は今でも、その時に食べたカレーライスのファンです。)

オープンキャンパスは知らなかった自分を発見できるチャンスでもあります。迷っている人はぜひ参加してみてくださいね。

## 学長室だよりの設置

敬和学園大学は、「大学は知識や技術を習得するだけの場ではなく、人間形成こそ大学教育の真の意義がある」という考えから、毎週金曜日のⅡ限に「チャペル・アワー」の時間を設けています。そこで配られる週報にて、学長自身が学園生活で感じたことをショートメッセージ「学長室だよりの」として執筆しております。

これまで「学長室だよりの」は、週報および本学ホームページに掲載しておりましたが、インターネットをご利用されない皆さまにも広く読んでいただきたいという思いから、JR新発田駅およびイオン新発田SC内にフリーペーパーとして設置させていただきます。この設置には、新発田市まちづくり振興公社様、イオンおよびジャスコ様のご協力をいただいております。

毎週、本学の職員が新しいものに更新しております。お立ち寄りの際には、ぜひお手にとってお読みいただければ幸いです。

(企画・広報係)



JR新発田駅に設置した「学長室だよりの」

## キャンパス日誌

### 4月

- 1日 学年始め
- 5日 入学式、保護者ガイダンス
- 6日 外国人留学生歓迎懇談会
- 10日 新入生歓迎公開学術講演会  
講師 フェリス文学院大学名誉教授 小堀トシ子 先生(写真)  
「心を高くあげよう」
- 12日 前期講義開始、履修登録期間(~18日) 教授会
- 14日 チャペル・アッセンブリー・アワー①  
説教 新井明 学長 「荒地は喜ぶ」  
講話 女性問題フォトジャーナリスト 大藪順子 先生  
「性犯罪・虐待の後遺症」  
日本アマチュア無線連盟表彰報告 中村義実 助教授
- 19日 ボランティアセンター主催 お花見
- 20日 新入生オリエンテーション  
於 胎内パークホテル (~21日)
- 28日 チャペル・アッセンブリー・アワー②  
説教 新潟教会牧師 上島一高 先生(写真)  
「いのちの重さに気づいた瞬間」  
講話 吉原写真館(フォトアーティスト) 吉原悠博先生 「私の家族、私の街」

### 5月

- 9日 シリマン大学(フィリピン)学生学校見学(3名)
- 10日 教授会
- 12日 チャペル・アッセンブリー・アワー③  
説教 新潟福音キリスト教会牧師 松永堡智 先生  
「人生の現在・過去・未来」  
講話 国際文化学科長 岩倉依子 教授  
「よき対話と相互理解のすすめ」  
植樹式  
(卒業記念樹 したれ桜3本、入学記念樹 コリノキ1本)
- 19日 チャペル・アッセンブリー・アワー④  
説教 延原時行 宗教部長  
「百合の花の美による救い~賀川豊彦の回心に学ぶ」  
講話 新発田市議会議員 森田国昭 先生(写真)  
「ネパールに学校を建てよう」
- 22日 まちカフェ 会場 新発田市まちなちの駅 (~6月28日、毎週月・水曜日 全12回)
- 23日 阿賀黎明高校見学会(生徒30名、教員2名)
- 25日 理事会・評議員会

- 26日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑤  
説教 敬和学園高校宗教主任 野間光顕 先生  
「ウォークライ」  
講話 K.I.V.サークル 「マレーシアでの10日間」
- 31日 本丸中学校職場体験(2名)(写真)
- 6月
- 2日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑥  
説教 延原時行 宗教部長  
「新しき神の義の再発見~マルティン・ルターの回心から学ぶ~」  
講話 藤本晃嗣 講師  
「お風呂から身近な人種差別を考える」
- 3日 大学オープン・カレッジ(~4日、120名)  
「『たのしい川べ』再読」 講師 斎藤惇夫 先生  
スポーツ大会
- 7日 教授会
- 9日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑦  
説教 ウィクリフ聖書翻訳協会 G・オーマン 先生、美紗子・オーマン 先生  
「世界のお国ことばへー聖書翻訳ー」  
国際文化学科キャッチコピー入賞者授賞式(写真)
- 13日 献 血(~14日)
- 16日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑧  
説教 新井明 学長 「辺境に生きよ」  
講話 留学生スピーチ  
留学生の集い
- 18日 オープンキャンパス①
- 19日 創立記念日
- 21日 高校教員対象進学説明会(14名)
- 22日 新発田市オープン・カレッジ①(118名)  
講師 新潟大学名誉教授 斎藤文一 先生(写真)  
「宮沢賢治と『銀河鉄道の夜』」
- 23日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑨  
説教 矢嶋直規 助教授 「真実が語られる場所」  
講話 世田谷ボランティア協会理事長 興格寛 先生  
「ボランティア新時代に向かって~私が変わる、社会は変わる~」
- 24日 JCLP(~7月22日) 12名参加
- 28日 敬和ボランティア・デイ
- 29日 新発田市オープン・カレッジ②(106名)  
講師 杉村使乃 助教授 「『指輪物語』二つの英雄譚ー」
- 30日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑩  
説教 金山愛子 助教授 「敬和~神に任せ、人に仕える~」  
講話 佐藤渉 教授 「旅について」



# 2005年度決算 2006年度予算

## 一〇〇五年度決算及び 二〇〇六年度当初予算

昨年度から当初予算には事業計画書、決算には事業報告書を作成していますが、紙面の都合で本誌への掲載は省略してまいりました。今年はページ数を増やし、事業報告書の一部も掲載することにしました。また昨年同様資金収支計算書および消費収支計算書の大科目表は、二〇〇五年度決算と二〇〇六年度当初予算を比較できるように、貸借対照表は二〇〇五年度末の数値をそれぞれ大学部門のみの表にしました。その中でも収支のバランスがわかりやすい消費収支計算書で特徴的な個所を説明します。

### 二〇〇五年度事業報告

本学の最大の課題だった入学者数が二〇〇三名となり、定員を確保することができませんでした。外国人留学生数が例年よりも多い二十八名だったのが特徴です。

おおむね当初予算に沿った予算消化でしたが、大学創立十五周年記念事業として、「写真でつづる敬和学園大学十五年のあゆみ」、記念絵はがきセットおよび卒業生名簿を作成することができました。

多様な学生が増える中で、キメ細かい学生対応に心がけ、学生の満足度を上げるように心がけてきました。就職率も九十五%を超えることができました。

一方、学外に対しても敬和の持てる力をフル動員した公開講座を開設し、参加者数はのべ一千人を越え、大きな評価を受けました。(下記表)

# 2005年度決算 2006年度予算

また、昨年から教育基本法の改正に向けて政府・与党を中心に活発な動きがありましたが、本学でも小委員会を設置し、数回にわたる勉強会が開催されました。このことは本法人の寄附行為にも影響を及ぼすことから、法人としての態度を表明すべく、高等学校とも連携して議論を進めています。新発田市の活性化のために、福祉の面からは日本社会事業大学大橋学長を招いて市への提言をしていただいたこと、また、商店街の空き店舗に「まちの駅」が開設され、市役所の観光振興課が事務所を設置したことに伴い、その一角に本学の総務係職員を常駐させ、新発田市との連携強化を図りました。このことにより、新発田市との共催で「まちカフェ」や各種講座を開催したことをはじめ、地元特に商店街の活性化の一翼を担うことができました。

### 《法人の概要》

#### ●設置する学校

①敬和学園大学 人文学部

入学定員二百名、収容定員八百名

・英語化コミュニケーション学科(六十名、三百二十名)

・国際文化学科(八十名、三百二十名)

・共生社会学科(四十名、百六十名)

②敬和学園高等学校 全日制課程

普通科(入学定員百名、収容定員六百名)

#### ●役員・評議員・教職員の概要

①役員(二〇〇五年五月一日現在)

理事長 後宮 俊夫

理事 新井 明 他十六名

監事 石田 瑞穂 他二名

②評議員(二〇〇五年五月一日現在)

信田 智 他三十五名

### 資金収支計算書

(収入の部)		(単位:円)	
科目	2005年度決算	2006年度当初予算	増減
学生生徒等納付金収入	676,470,000	723,840,000	△ 47,370,000
手数料収入	12,083,567	8,402,000	3,681,567
寄付金収入	15,437,200	15,124,000	313,200
補助金収入	130,418,260	128,173,000	2,245,260
資産運用収入	8,650,907	8,671,000	△ 20,093
資産売却収入	1,200,639,827	900,000,000	300,639,827
事業収入	8,213,200	4,900,000	3,313,200
雑収入	11,286,811	1,589,000	9,697,811
前受金収入	187,430,000	175,900,000	11,530,000
その他の収入	4,084,263	10,104,000	△ 6,019,737
内部資金収入	3,476,744	3,054,000	422,744
資金収支調整勘定	△ 200,853,143	△ 167,276,000	△ 33,577,143
前年度繰越支払資金	743,981,448	736,180,448	7,801,000
収入の部合計	2,801,319,084	2,548,661,448	252,657,636

(支出の部)		(単位:円)	
科目	2005年度決算	2006年度当初予算	増減
人件費支出	528,111,130	529,569,000	△ 1,457,870
教育研究経費支出	171,645,751	190,606,000	△ 18,960,249
管理経費支出	78,747,143	73,198,000	5,549,143
借入金等利息支出	11,748,720	10,741,000	1,007,720
借入金等返済支出	33,320,000	33,320,000	0
施設関係支出	12,935,538	3,870,000	9,065,538
設備関係支出	24,950,212	26,150,000	△ 1,199,788
資産運用支出	1,125,279,735	900,000,000	225,279,735
その他支出	12,739,043	12,100,000	639,043
内部資金支出	28,996,261	129,761,000	△ 100,764,739
予備費	0	5,000,000	△ 5,000,000
資金支出調整勘定	△ 14,667,676	△ 12,218,000	△ 2,449,676
次年度繰越支払資金	787,513,227	646,564,448	140,948,779
支出の部合計	2,801,319,084	2,548,661,448	252,657,636

### 消費収支計算書

(収入の部)		(単位:円)	
科目	2005年度決算	2006年度当初予算	増減
学生生徒等納付金	676,470,000	723,840,000	△ 47,370,000
手数料収入	12,083,567	8,402,000	3,681,567
寄付金収入	17,845,318	15,624,000	2,221,318
補助金収入	130,418,260	128,173,000	2,245,260
資産運用収入	8,650,907	8,671,000	△ 20,093
資産売却差額	249,000	0	249,000
事業収入	8,213,200	4,900,000	3,313,200
雑収入	11,344,611	1,589,000	9,755,611
帰属収入合計	865,274,863	891,199,000	△ 25,924,137
基本金組入額	△ 58,142,540	△ 63,960,000	5,817,460
消費収入の部合計	807,132,323	827,239,000	△ 20,106,677

(支出の部)		(単位:円)	
科目	2005年度決算	2006年度当初予算	増減
人件費	527,064,130	530,619,000	△ 3,554,870
教育研究経費	273,191,646	262,820,000	△ 10,371,646
管理経費	88,722,659	81,215,000	7,507,659
借入金等利息	11,748,720	10,741,000	1,007,720
資産処分差額	7,979,148	0	7,979,148
予備費	0	5,000,000	△ 5,000,000
消費支出の部合計	908,706,303	890,395,000	18,311,303
当年度消費支出超過額	△ 101,573,980	△ 63,156,000	
前年度繰越消費収入超過額	780,420,946	674,614,946	
翌年度繰越消費収入超過額	678,846,966	611,458,946	

③教職員数(二〇〇五年五月一日現在)

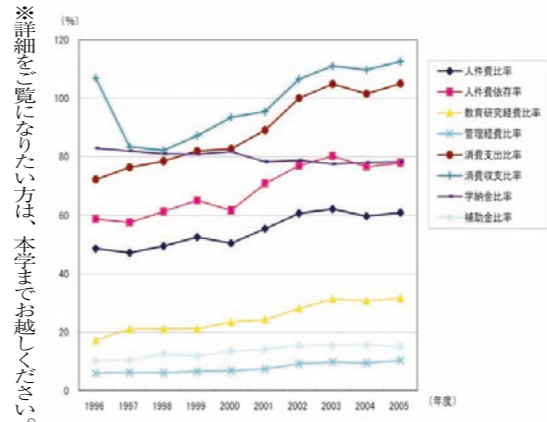
- ・法人専任教員 一名
- ・大学専任教員 三十七名
- ・非常勤講師 三十六名

●二〇〇五年度決算

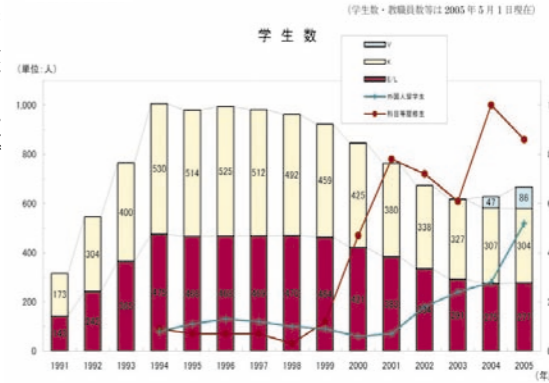
- ・大学専任教員 二十四名
- ・非常勤職員 七名

了。前年度からは三七、六八千円ほどの増収でした。これは納入者数が三十名ほど増加したことに伴うものです。この科目の中には、科目等履修生の授業料が含まれていますが、この年度も一〇〇名を超える履修者がありました。

### 《財務比率の推移》



### 《学生数の推移》



### 《2005年度開催の公開講座》

タイトル	講師	日程	参加者
敬和学園大学オープン・カレッジ「阿賀の流れに」	坂東 克彦 弁護士	6月18日(土)、19日(日)	67名
敬和学園大学オープン・カレッジ「いまに生きる昔話」	真壁 伍郎 新潟大学名誉教授	10月1日(土)、15日(土)、22日(土)	132名
新発田市オープン・カレッジ「民族、宗教、国家を超えて」	新井 明学長、大野 元裕 財団法人中東調査会 上席研究員(ほか)	6月16日~7月21日(毎週木、全6回)	111名
聖籠町オープン・カレッジ「いのち、ひと、生活」	益谷 真 教授、青山 良子 助教授(ほか)	10月4日~11月1日(毎週火、全4回)	24名
新潟市豊栄地区オープン・カレッジ「こぼれ、社会、コミュニケーション」	安藤 司文 教授、上野 恵美子 教授(ほか)	6月8日~7月13日(毎週水、全6回)	31名
三条市オープン・カレッジ「共存する社会、共生する社会」	山田 耕太 教授、山崎 ハコネ 講師(ほか)	3月1日~3月22日(毎週水、全4回)	21名
新入生歓迎公開学術講演会「生命(いのち)を育むことは」	東後 勝明 早稲田大学教授	4月7日(木)	82名
創立15周年記念セミナー「住民参画型のまちづくりを考える」	大橋 謙策 日本社会事業大学学長、片山 吉忠 新発田市長	10月15日(土)	90名
創立15周年記念講演会「あなたは戦争を知っているか」	若桑 みどり 川村学園女子大学教授	11月12日(土)	232名
人文社会科学研究所講演会「内村鑑三の信仰と平和論」	富岡 幸一郎 関東学院大学教授	6月2日(木)	73名
人文社会科学研究所講演会「北の玉器文化」	徐 子峰 中国・赤峰学院教授	10月23日(日)	15名
人文社会科学研究所助成講演会「社会福祉の原型概念」	小泉 仰 慶應義塾大学教授	10月26日(水)	11名
中学校・高等学校英語科教師のためのリフレッシュ・セミナー	外山 節子 教授(ほか)	7月30日(土)	49名
キャロリン・グレாம் セミナー&チャリティー・コンサート	キャロリン・グレாம் 先生	11月23日(祝)	136名

# 2005年度決算 2006年度予算

寄付金は大部分が大学後援会からのものですが、卒業生からの寄付金も年々多くなっていることは、ありがたいことです。事業収入には、オープン・カレッジ、訪問介護員二級講座、JCLP、就職・資格取得講座等が含まれています。

雑収入には、退職金団体交付金のほか新規に卒業生名簿販売費、スピーチ・コンテンツに対する財団法人中島記念国際交流財団からの支援金等が含まれています。

帰属収入から基本金組入額五八、一四二千円を引いた八〇七、一三二千円が消費収入の合計で、前年度よりも四九、三二六千円の増収になりました。

一方支出では、人件費は五二七、〇六四千円で、前年度より三七、八九〇千円増加しています。これは退職金の増加もありますが、専任教員数の増加が大きな要因です。

教育研究経費は前年度よりも二一、五〇五千円増加し二七三、一九一十千円になりました。これは、特待生や学内奨学生が増えたことにより小科目の奨学費が一五、七七六千円増加したことが主な要因です。

消費支出の合計は九〇八、七〇六千円となりました。

この結果、消費支出超過額は一〇一、五七三千円となりました。当初予算では一三一、五三三千円でしたので、期中に二九、九六〇千円回復しましたが、消費支出超過額が一〇〇、〇〇〇千円を超えたのは、完成年度（開学後全学年が揃う年度）以降初めてです。後ほど述べますが、二〇〇六年度は学生数が増加になりますので、回復傾向になります。

# 2005年度決算 2006年度予算

従って、消費収入の合計は八二七、一三九千円となりました。

一方支出では、人件費は五三〇、六一九千円となり、昨年度とほぼ同額です。

教育研究経費については、昨年度より一〇、三七一十千円少ない二六二、八二〇千円を計上しました。これは、大科目では表示されていませんが、奨学費が昨年よりも五、八四九千円増加と増え続けていること、逆に校舎の減価償却が一部終了して二九、三三二千円減少したことが主な要因です。

管理経費の八一、二一五千円は昨年度より七、五〇七千円減少しています。これは、教育研究経費と同じく、減価償却の終了が要因です。

従って、消費支出の合計は八九〇、三九五千円となり、昨年度より一八、三一一千円減少しています。

この結果、当年度消費支出超過額は六三、一五六千円となりました。

支出超過額は昨年度の当初予算に比べると六八、三七七千円減少し、決算からは三八、四一七千円減少しています。学納金でも記載しましたが、在学生数は今年度七〇六名で当初予算を組み立てています。これでも支出超過の計算書になっていますが、昨年度は期中で三〇、〇〇〇千円ほど回復していますので、今年度も同じ水準で推移できるように、効率の良い予算の執行を心がけ、最も大きな課題である入学者数の確保に、全学を上げて全力で取り組んでまいります。

(総務課長 長澤)

収入が弾力的にならない学校経営では、教育環境を低下させずに支出を抑える努力が、今後も一層重要になっていきます。

## ●二〇〇六年度当初予算

学納金については、七三三、八四〇千円を計上しました。二〇〇五年度決算より金額で四七、三七〇千円の増加、積算基礎人数では入学者数は微減しましたが、全体で四十二名増加した結果です。

補助金については、さまざまな要素から毎年予算どおりの金額とはなっていないが、ほぼ昨年度実績と同額の一二八、一七三三三千円を計上しました。

(単位:円)

## 貸借対照表

2006年3月31日現在

科目	年度	2005年度末	科目	年度	2005年度末
<b>固定資産</b>		<b>2,665,975,741</b>	<b>固定負債</b>		<b>347,907,200</b>
有形固定資産		2,339,887,090	借入金		333,200,000
土地		549,816,875	借与引当		14,707,200
建物		1,420,049,072	<b>流動負債</b>		<b>237,874,716</b>
構築物		3,518,080	短期借入金		33,320,000
教育研究用機器備品		47,320,206	未払受入金		13,551,726
その他の機器備品		3,743,185	前受入金		187,430,000
図書		312,163,667	預り受		3,562,990
車		3,276,005	返		10,000
その他の固定資産		326,088,651	<b>負債の部合計</b>		<b>585,781,916</b>
権利		1,104,984	第1号基本金		3,385,567,393
加利用証券		57,551	第4号基本金		64,000,000
設備貸付		318,935,206	<b>基本金の部合計</b>		<b>3,449,567,393</b>
長期預		5,040,000	翌年度繰越消費収入超過額		678,846,966
長期貸		950,910	<b>消費収支差額の部合計</b>		<b>678,846,966</b>
長期貸		1,578,257,167	内部部門勘定		△ 469,963,367
流動資産		1,578,257,167			
現金預入証		787,513,227			
金取価		8,951,143			
現未前立		781,260,664			
有前立		124,250			
立		389,783			
仮		18,100			
<b>資産の部合計</b>		<b>4,244,232,908</b>	<b>負債の部、基本金の部、消費収支差額の部及び内部部門合計</b>		<b>4,244,232,908</b>

## 寄付者ご芳名

- 一 一般
- 荒井 キヨ
  - 皆川 日出夫
  - 森田 国昭
  - 名取 敏子
  - 大須賀 優子
  - 鈴木 美和子
  - 若山 浩一
  - カン建株式会社
  - 敬和学園大学後援会
  - 新井 明 3
  - 一九九六組 長谷川 政和
  - 二〇〇〇組 日下部 清仁
  - 二〇〇一組 加納 甲矢太郎

## 学事予告

- ◆七月
- 二日 東方学院短期留学(三十一日まで)
  - 六日 新発田市オープン・カレッジ③
  - 十一日 前期講義終了
  - 十二日 補講日(十八日まで)
  - 十三日 新発田市オープン・カレッジ④
  - 十五日 三年生保護者との懇談会
  - 十九日 前期末試験(七月二十九日まで)
  - 二十日 新発田市オープン・カレッジ⑤
  - 二十二日 小林陽太郎氏講演会
  - 二十三日 カワホルニア州立大学バンナディール校短期留学(八月三十一日まで)
  - 二十七日 新発田市オープン・カレッジ⑥
  - 二十九日 英語科リフレッシュセミナー
  - 三十日 夏期休暇(九月二十一日まで)
  - オープンキャンパス②
  - 秋季入学試験
  - アングロ・コンチネタル短期留学(九月四日まで)

- ◆八月
- 一日 前期集中講義(八月四日まで)
  - 二十三日 前期追試験(二十五日まで)

- ◆九月
- 四日 再試験(五日まで)
  - 五日 教育実習事前指導(七日まで)
  - 十八日 オープンキャンパス③
  - 十九日 前期卒業式
  - 二十日 後期入学式
  - 二十五日 後期講義開始



本学にお寄せくださった皆さまの支援・ご厚意に心より感謝申し上げます。